

小中高一貫教育後期「人権学習」

～身近な「平和」を考えよう～

12月2日(水)本校体育館において長崎大学核兵器廃絶研究センター副センター長の広瀬訓教授をお招きし、～身近な「平和」を考えよう～の演題で小値賀中学校2・3年、北松西高校合同での人権学習を実施しました。

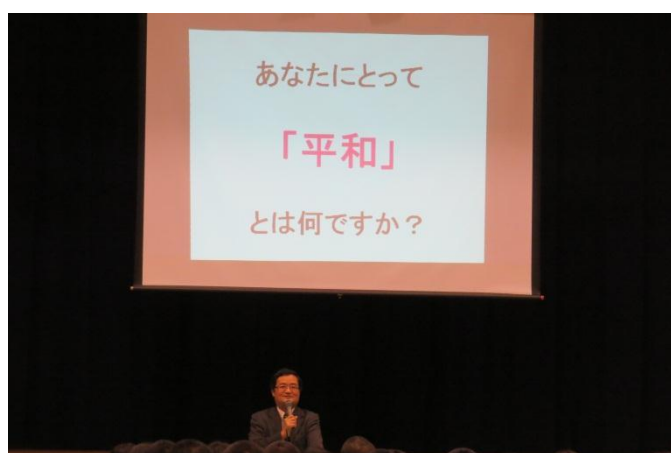
今年度は「自分と異なる文化や価値観を認めようとする姿勢」「違いは豊かさにつながる」が、いじめ撲滅のスローガンであると同時に、国際社会において重要なことであるとの立場に立ち、身近な「平和」から社会や世界を見る目を育てることをねらいとしました。



講師の広瀬訓教授



真剣な眼差しで聴いています



平和とは



生徒代表お礼の言葉

—生徒感想— (1年男子)

今回の人権学習のテーマである「身近な平和を考える」について「平和」という大きな問題を考えるととてもよい機会になったと思います。僕が今日思ったことは「平和」とは何か、どのようにすれば「平和」になるのかです。今日改めて「人権」「平和」はお互いに深く結びついているということがわかりました。人権が守られないところでは争いが起きることが多く、また平和がなければ、人権が無視されるということもわかりました。世界の争いは、人間や動物の命を奪い、人間らしい生活を奪い、考えや表現の自由を奪います。今回の経験から言えることは「平和」は昔にくらべて身近になってきてはいるが格差が大きいということです。これからは、もっと世界中が「平和」になっていけばよいと思いました。今、私ができることを心にきざみ自分の周りの友人や家をもう一度見つめなおしたいと思います。